

今だから問われるBCP対策(後編) BCPを実践し社会貢献を推進

前回は企業のBCP対策(Business Continuity Plan: 事業継続計画)について、特に直近で対応しなければならぬ豪雨や台風など自然災害への対策と、損害保険の問題点や内容の見直しについてお伝えしました。今回は、BCPを運用に乗せるまでのBCPサイクルとホール企業の社会貢献についてお伝えします。

SNSで活動をアピールし BCPサイクルで実践へ

7月の豪雨で川が氾濫した大分県で、パチンコ大手チェーンの店長さんが「駐車場の2、3階を開放します」とツイッターで告知したところ、7500を超えるリツイートがあり、大変評判になりました。また去年の10月ですが、近鉄四日市市にあるパチンコチェーン店さんが台風前に駐車場を開放して大きな反響がありました。リツイートは1万2

000越えです。実は全国のパチンコ店の駐車場の多くは、水害を避けるためのいわゆるクルマの「垂直避難」場所として台風や洪水の時に開放されることはあまり知られていません。

また神奈川県遊技場協同組合では、神奈川県と災害支援に関する協定を結んでおり、加盟店が「災害時帰宅支援ステーション」として協力しています。協力店には400店舗が登録していて、トイレの利用や災害備蓄の飲料水や食

料、WiFiや電源などが無償で提供されるようになっていきます。貸し出し用の充電器もたくさんあるほか、飲料自販機は災害モードにして無料で利用が可能になります。備蓄の食料品が切れてしまったら賞品の食料品やお菓子を提供することも可能です。

こういう取り組みはお客様から感謝され、営業にも良い影響を与えてくれる事が多いでしょう。企業は自社のCSR活動(CSR: Corporate Social Responsibility) 企業の

社会貢献、社会的責任)をもっとアピールして、業界外にも正しく伝わっていくと嬉しいです。

前号からお伝えしているBCPは、こんな有事の時に効果を発揮します。その具体的な設定内容が、以下で紹介するBCPサイクルの運用です。

BCPサイクルは、「PDCAサイクル」にも似た次の5つの「プロセス」から構成されています。(※下段冒頭の円グラフ参照)。

BCP策定・運用のサイクル



詳細についてはQRコードを読み込み、中小企業庁のガイドラインをご覧ください。



出典:中小企業BCPの策定促進に向けて(経済産業省中小企業庁)

ホールの災害対策として 非常電力や防災備蓄も

BCP対策は災害時の行動指針として重要ですが、その一方、現実的な要求として、ホール店舗自体が災害時に地域の避難場所としての機能を求められている側面があります。それは日本全国に展開する約1万店舗という存在価値によるものだと思います。実際、国からもそうした打診があります。

近年は地震や台風等による洪水被害が頻発しており、従業員はもちろん企業や店舗が大きな被害に遭う可能性が高くなっています。経済的な損失も膨大です。

最近の自然災害と経済損失、停電期間

名称	災害	発生	停電期間	被害額
令和元年台風第19号	台風	2019年10/6	約2週間	3961億円
北海道胆振東部地震	地震(震度7)	2018年9/6	約1週間	1620億円
西日本豪雨	豪雨	2018年6/28	約1週間	約1兆2150億円
大阪北部地震	地震(震度6弱)	2018年6/18	約1週間	1800億円



よしまつ しん
2000年にバック・エックスグループへ中途入社。全国ホール企業の採用、教育、組織コンサルティングをはじめ、新電力の業界窓口、業界特化の損害保険代理店を立ち上げ兼務。世の中にあるサービスを業界に合うように変換し新たな形で展開、包括的にサポートしている。

ホールは水害や停電に弱いことから、特に非常用電源の確保は自店の活動維持はもちろんな、避難場所の機能維持にも大変重要になっていきます。既に国では災害時の非常用電源配備に動いており、経済産業省は2018年から自家発電機を備えた「住民拠点サービスステーション(SS)」の整備に着手しています。業界でも地域向けに電力供給設備を備えている所もありますが、まだまだ少ないのが現状です。あるホール様では、駐車場に自立型風力発電機「TRONC(トロン)」を設置して、風力+太陽光によるハイブリッドな発電システムを採用している店舗があります。業界では初の設置例ですが、注目度は高いと思います。発電システムは費用もかかりますから、すぐに実現するのは難しいかもしれません。

ホールの災害対策として、まず自店舗で災害時に社会貢献できる仕組みの有無を確認することから始め、無ければ有事の時に対応できるマニュアルや対策を講じてみてはいかがでしょうか。北海道の某ホール様で聞いたのですが、一昨年の地震の時、そのホール様は災害対策マニュアルを設け、店舗を避難所として提供したそうです。賞品も非常用として配り大変喜ばれました。一方、近くの別のホール様ではマニュアルが無く現場が対応できなかったとのこと。これはとても対照的な事例です。

このように、ホールは避難インフラとして価値が高く、災害時にも存在感を発揮して社会貢献ができると思います。BCPはCSRにも通じます。これを機会にぜひBCP対策を考えてみてはどうでしょうか。

今月のよしまつ格言

BCPはCSR(社会貢献)にも通じます

その心は…実践的なBCP対策で自店だけでなく地域貢献にも役立てよう